

V. 特記事項

1. 「対人援助」を中核とした教育・研究の推進

(1) HBG(Hiroshima Bunka Gakuen)対人援助研究センターの設置～研究ブランディング事業の選定～

広島文化学園大学（以下「本学」という。）は、平成28(2016)年度に、学長を本部長とする HBG 対人援助研究センターを設置し、研究テーマ「地域共生のための対人援助システムの構築と検証」について、文部科学省私立大学等研究ブランディング事業の選定を受け、令和元(2019)年度までの間、大学ブランド力の向上に向けて、全学的な取組を着実に実行した。

事業実施に当たっては、呉 阿賀キャンパスに看護・医療福祉研究部門、広島 坂キャンパス・呉 郷原キャンパスにスポーツ・健康福祉研究部門、そして広島 長束キャンパスに子ども子育て支援・教育福祉研究部門の3研究部門を置き、対人援助プログラムやサポーター養成プログラムの開発を目指して、公開講座やシンポジウムの開催をはじめ年次計画に基づき多様な教育研究活動を展開した。

事業を推進する際には、看護師、保健師、教師、保育士、社会福祉士、健康運動指導士などの対人援助の専門職を目指す学生を活動に参加させるとともに、地域の方々の集いの場として「来んさいカフェ」を提供するだけでなく、集会所や公民館で出張型の「来んさいカフェ」を開設するなど、多様な活動を計画的に実施した。

事業実施をとおして「対人援助」をテーマとした授業を全学部・学科の教育課程に位置づけ、本学で学ぶ全ての学生に、対人援助の基礎となる心構え、知識、技術を身に付けさせた。また、ジェネリックスキルテストによって学生の成長をリテラシーとコンピテンシーの側面から確認し、学生自身に自己の成長を点検評価させるとともに、進学や就職支援のための個人面談等に活用することが出来た。

(2) 「対人援助」を中核とした教育・研究への展開

研究ブランディング事業については、学園の教育方針の一つである「対人援助」を推進するため「学校法人広島文化学園中期経営計画」に明記し、本学の目指すべき方針として共通理解を図ってきた。「学校法人広島文化学園中期経営計画Ⅳ」第12章では「研究と教育のダイナミックな連携」を重点戦略として位置づけ、対人援助を中核とする教育研究の更なる発展・充実に向けて全学的に取組を推進している。

こうした取り組みの結果として教員の共同研究の推進だけでなく、学生の研究への参加等により、きめ細かな学修支援・学生生活支援につながり、学生の意識やレベルの向上がみられるようになってきた。また、教職員は、学長の教学方針を常に念頭におき、研究ブランディングをテーマとしたFD(Faculty Development)・SD(Staff Development)研修、科研費獲得に係る研修等をとおして、組織の一員として研究と教育の関連付けを共通理解しながら取組を進めることができるようになってきている。